⑩ 日本国特片庁(JP) ⑪実用新案出願公開

母 公開実用新案公報 (U) 平1-61647

Mint Cl.4

識別配号

庁内整理番号

母公開 平成1年(1989)4月19日

G 01 N 21/61 21/15

7458-2G 7706-2G

審査請求 未請求 (全 頁)

図考案の名称

赤外線ガス分析計

②実 顋 昭62-158038

顧 昭62(1987)10月15日 **₩**

山本 砂考 案 者

順二

東京都武蔵野市中町2丁目9番32号 横河電機株式会社内

横河電機株式会社 ②出 顋 人

東京都武蔵野市中町2丁目9番32号

弁理士 小沢 信助 ②代 理 人



明和書

- 考案の名称
 赤外線ガス分析計
- 2. 実用新案登録請求の範囲

3. 考案の詳細な説明

<産業上の利用分野>

本考察は、赤外線分析計の測定ガスの汚れによるゼロドリフトの低減に関する。

<従来技術>

_ 1 _

第2図の断面構成図及び第3図の動作説明図に 基づいて赤外線分析計の一般的な構成と動作の概 要を説明する。

1は円筒状の測定セルであり、101,102 はその両端部に形成された透明窓、103,10 4は測定セル側端部成された測定ガスGの導入孔 及び排出孔である。2は測定セルに並列配置され た同一構造の円筒状の比較セルであり、201, 202はその両端部に形成された透明窓である。 比較セル内には空気又は窒素などの基準気体が充 頃されている。

し」は測定セル内を軸方向に透過する赤外線光束、 L2 は比較セル内を軸方向に透過する赤外線光束である。 3 は赤外線光束を発信する光源、 4 は内面にミラー401を有して光源からの光を反射させて平行光束し」、 L2 を発生させる第1反射億体である。

5 は内面にミラー5 O 1 を有して測定セル及び 比較セルを透過した平行光束し1 , L2 を反射さ せて半導体光検出器 6 に入射させるための第 2 反



射筐体である。

7は第2反射筐体内で回転駆動されるセクターであり、透過光束し」、し2を一定周期で交互に半導体光検出器6に入射させる。8はセクター駆動用の電動機であり、第2反射篦休5の外部に配置され、マグネットカプリング機構9、10により筐体内のセクター7を回転駆動する。

赤外線分析計の原理は、赤外線の波長を分析したいガスを代表する特定の値に固定し、その波度における透過度からガスの遊度を連続的に測定するものであり、第3回にその概念を示す。光光の光末エネルギーを「。、光検出器の受光エネルギーを「、セル長』。、ガス波度C、ドを常数とするとき、ランベルト・ベールの法則により、

I = I o e - KCR

となり、K. ℓ, I。が常数となるので、」は濃度Cだけの関数となり、測定が可能となる。

実際の装置では比較セルの透過光と測定セルの透過光を比率演算してCを算出する。

<考案が解決しようとする問題点>



即ち、測定セル側の透明窓101,102は測定ガスにより汚れて透明度が低下するのに対して、比較セル側の透明窓201,202は測定ガスによる汚れが発生しないので、透過光の比率演算の際に汚れの影響が補償されずにゼロドリフトの発生が生ずる。

本考案は、この様な問題点を解消した赤外線ガス分析計の提供を目的とする。

<問題点を解決するための手段>

本考案の構成上の特徴は、両端部に透明窓が形成され、これら窓を介して軸方向に赤外線光束が



< 作用 >

比較セル内に被測定ガスが通過する透明窓で仕切られた室が形成され、被測定ガスによる測定セルと比較セルの汚れの条件が同一とされ、汚れによるゼロドリフトが両セルで等しくなり、補償される。

< 実施例 >

本考案のポイントは、比較セル側に測定ガスが 通過する室を構成し、量セルの汚れの条件を等し くした点にある。

第1図に基いて本考案の実施例を説明する。図



は、測定セルと比較セルのみの主要部の構成を示しており、他の要素は省略されている。

比較セル2において、203は一端の透明窓201から一定距離しの位置に設けられた第3の透明窓であり、比較セルの側壁及び透明窓201、203により室R2が形成される。

204,205は、このつR2の側面部に形成された測定ガスGの導入孔及び排出孔であり、排出孔205は連絡管路12を介して測定セルの導入孔103に連絡する。従って、測定ガスGは比較セルの室R2を通過した後に測定セルに導入される。

測定セル1側において、一端部の透明窓101 より距離しの位置には第3の透明窓105が設けられ、測定セルの側面及び透明窓101,105 により比較セルの室R2と等しい中空室R1が形成され、空気又は窒素などの基準気体が充収されている。この様な中空室を測定セル側に設ける理山はく室R2が形成された比較セル側と光学的な条件を同一にするためである。



この様な構成により、光束と直交する面が測定ガスGにより汚れる条件は、比較セル2側では透明窓201の上面と203の下面の2面であり、測定セル1側では透明窓102の下面及び透明窓105の上面の2面となり、両セルにおける汚れの条件は同一となる。

従って、両セルの透過光の強さの比率演算の実行によりドリフトが補償され、透明窓の汚れによるゼロドリフトの影響は極めて低減されることになる。

本考案の他の実現手段としては測定セル1の長さをあらかじめ距離しだけ短くしておくことにより、室R2 の形成を省略することも可能である。
<考案の効果>

以上説明したように、本考案によれば透明窓の汚れによるゼロドリフトが大幅に補償された赤外線ガス分析計を比較的簡単な構成により実現することができ、測定精度、案程度の向上に効果がある。

.4. 図面の簡単な説明



第 1 図は本考案の実施例を示す主要部の構成図、第 2 図は従来技術の一例を示す構成図、第 3 図はその動作説明図である。

1 … 測定セル 101, 102, 105 … 透明

窓 2…比較セル 201,202,203

… 透明窓 3 … 光源 4 … 第 1 反射 筐体

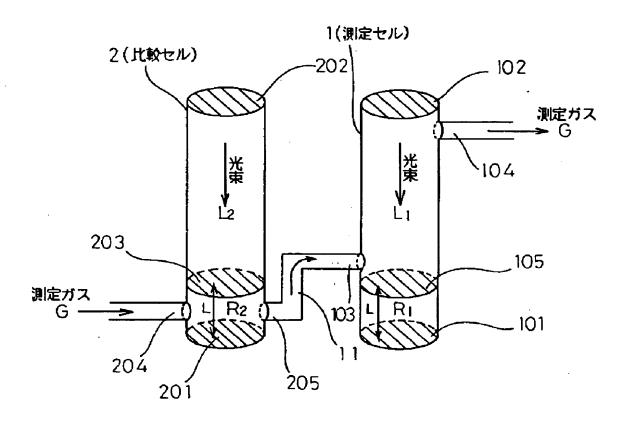
5 … 第 2 反射筐体 6 … 半導体光検出器 7

… セクター 8 … 電動機 9,10 … マグネ

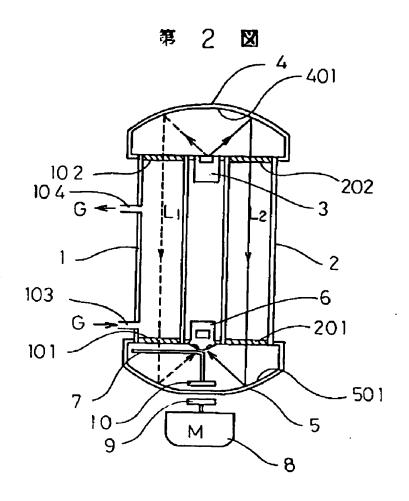
ットカプリング機構

代理人 弁理士 小 沢 信

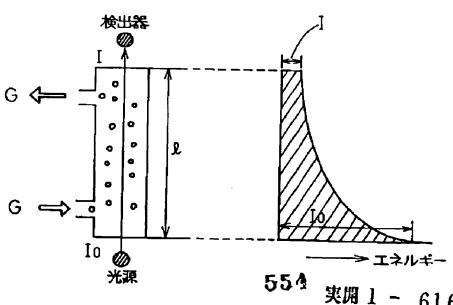




553 代理人 弁理士 小 沢 信 I 実現 I - 61647



第 3 図



兴阴 1 - 6164.7 代理人 弁理士 小 沢 信 助

This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

BLACK BORDERS

IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES

FADED TEXT OR DRAWING

BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING

SKEWED/SLANTED IMAGES

COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS

GRAY SCALE DOCUMENTS

LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT

REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

☐ OTHER: _____

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.